



ヒドリガモ号

《私が子どもだった頃》 飯村 優介

私が小学校低学年頃の侍従川に、やっと下水道が整いました。

それまでは大変汚い水に、灰白の水綿がつき、臭いがひどかったものです。ところが下水道ができ、川床に小石がしかれて、水はかなりきれいになりました。

川沿いを歩いて小学校に通っていたので、いろいろな生き物や今まで見られなかった魚も見られるようになりました。しかしドブ川のイメージに支配されていました。

地域では、「川に入るな」「山に入るな」の大人がいばっていた時代で、もっぱら朝比奈の奥とか、人がうるさくない森へよく行って、キノコや山菜、生き物の面白さを楽しんでいました。源流にいくつかとてもきれいな溪流が存在することも見つけていました。

山菜や食べられる木の実には父に教わりました。小学校時代は運動が苦手で、父は木登りも得意で山栗やアケビも見事に採るし、そして父の子ども時代は宅地化される前で、広い森がつづき、コナラや山栗の明るい尾根がつづき、山栗や山菜も、もっとたくさんあったといいます。それから色や形の面白いものに興味があり、小3の頃、キノコにのめり込みはじめたのです。

ヒドリガモ (緋鳥鴨)

学名: *Anas penelope* Linnaeus

解説: ユーラシア大陸北部やアイスランドで繁殖し、冬季はヨーロッパ、アフリカ北部、インド北部、中国南部、朝鮮半島、日本などに渡り越冬する。いわゆる“淡水”ガモであるが、海域でよく見られるのは、ノリなどの海藻類を好んで食べるからであろうか。侍従川流域ではカモ調査を開始した1994年頃は海域でしか見られなかったのが、今では下流域で普通に見られるようになった。国際的には減少傾向で国際自然保護連合(IUCN)レッドリストに指定される(軽度懸念)。オスの頭部の色から「緋(色)鳥」ガモと名付けられた。色だけでなく、角張った額も特徴的。肉は臭みがありあまり美味しくないそうだ。 山田陽治



野島山にテングタケでも見に行こうと出かけてオレンジ色のじょうご形のキノコが黒松の下に出ていて、見ていたら通りがかりの人が食べられると言い、祖父も持ち帰ったのを、昔食べたハツタケだと言い、それで家族みんなで食べてやはり美味しい。ぼそっとする口あたりだけですが、すごくいい味がでね。

分厚い「日本のキノコ」という図鑑といくつかの図書も使い研究しました。

そうすると朝比奈の雑木山にもおいしい食用キノコが沢山みつけて楽しみが増えました。もちろん毒をきちんと研究していたからひどい目にあわずにすんでいるのです。

小6の頃は担任が尾上伸一先生、PTA 会長が相川澄夫さんで、川に入って生き物を調べる強い味方になってくれて、地域でも応援してくれる、昔、川であそんだ方々ができて、生き物発見ニュースもつづきました。理科の授業をうら山で行ったりして、活躍できたおかげで、クラスの友達もチームになって川や山、海にでかけたり・・・

中学時代は活動や交流が拡がり、いろいろな出会いもあり、山田さんがお兄さんリーダーに加わって、今の侍従会の大道ふるさとの生き物に親しむ会ができました。

サバイバルキャンプは十二所の奥で張って、サワガニやヨシノボリを丸揚げにして食べていて夏の大雨にあいずぶヌレで撤退したり、三戸浜の奥で夜明けから海で泳いでいたり、山田さんや梅田さんがお兄さんリーダーで楽しい思い出が沢山あります。

大道小学校では、卒業後の年に自然広場の大池が掘られ、侍従川ではアユやハセ類、源流のゲンジホタルとめざましいニュースが続きました。昔、川で遊んだことのある大人の方も多く応援して下さる様になり、川への地域の意識も大きく変わってきたのでした。

小学校低学年の頃に、もっといい川になればいいなという思いが、形になりはじめました。

一方で世の中のいろいろな事柄も見えると、一人で自由な思考を好む自分も見えてきました。20代は東京の創形美術学校に学び、研究科時代に独立展、上野の森美術館大賞展、県展と入選し画家として地元のアトリエに戻りました。

実は、工カキ・画家というのは世の中の先見と未来をみつめて種をまいていく仕事でもあります。ヨーロッパの美術家も河川の生態系を守るプロジェクトに協力していて、私もサインインしました。ふるさとの川、侍従川と人のつながりは多くの成果と可能性を持ち続いています。

(おわり)

第24回 かながわ若者生き生き大賞「キララ賞」に当会副代表の佐野真吾氏が選ばれました！ おめでとうございます！

☆キララ賞（かながわ若者生き生き大賞）とは☆

生活クラブ生協が1989年に「ライト・ライブリフッド賞」を受賞したことを契機に創設された賞で、今年度で23年目を迎えます。毎年神奈川を舞台にさまざまな分野で活動している若者を表彰し、讃えています。

ハゼ釣り大会

9月20日(土) 9:00~16:00

【活動報告1】

鳥越典子

9月20日(土)、あいにくの悪天の中、今年もハゼ釣り大会が行われました。約50人の親子連れで例年より多い参加者にびっくりしつつ小雨の中開始。

午前中は下流の橋で・・・釣果はイマイチ(T_T) 願いもむなしく雨はやむ様子もなし。そんな中でも山田さんがヒット! そして笑顔! (*^_^*) 写真を撮り忘れたのが何とも悔しい。

例年どおり午後からは、ちとせ園に移動し、雨もやみ天ぷらが出来そうなので調理開始。調理を手伝う子、釣り続行の子、川で生き物を捕まえる子、皆それぞれに楽しんでいました。結局釣り続行の親子は、ちとせ園近くでハゼの仲間を200匹近くも釣りました。

こうなるとさばくのも揚げるのも忙しい。子どもも大人の指導のもと重要な戦力に。初めて握る包丁にドキドキしつつも、やってみると楽しい&褒められるとうれしい。ワタシもボクもやればできる!

子ども達はまた、揚げたそばからあっという間に食べていく。揚げても揚げてもエンドレス(揚げ手談)。普段は魚が苦手な子でも、頭も骨も喜んで食べていました。

また来年も沢山釣って食べたいな♪ 自然の恵みよありがとうございます! の一日でした。

情報大募集!!

ジュニアキャンプで使用するテントやライフジャケット、学生部調査で使用する胴長やケースなどを保管する場所がなくて困っています。

格安のレンタル収納ボックスを知っている、収納ボックスを置ける場所を知っている、うちの庭を使ってもらっても構わない、テントひと張りなら預かってもいい、などなど、どんなものでも構わないので、情報をお持ちの方は、山田(090-3806-0055 yohji-y@ezweb.ne.jp)まで連絡ください。



9月定例クリーンアップ

【活動報告2】

9月28日(日) 9:00~11:00 晴 25℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、村田章夫、石塚正夫、関場俊子、山田陽治、金澤喜乃、金澤瑛士(中1)、小野田幸介、片岡生一(小6)、細川一雄(計13名)

今日は暑くも寒くも無い快適な秋晴れの日となりました。今年から草刈りを中止したので朝の出発も急ぐ必要が無くなり、余裕を持って準備が出来るようになりました。また、先月区役所の区政推進課にメールでお願いしていた上流部分の草刈りを金沢土木が実施してくれたようで、大道橋から耕地橋まで綺麗になっていました。

出発当初9人でしたので、メンバーを上流4名、下流5名に分け作業を開始しました。途中子ども達も参加してくれましたので下流の掃除(魚とり含む)を担当してもらいました。下流域はペットボトルが予想以上に多く開始30分で各人が持っていった土嚢袋が一杯になり、あわてて、土嚢袋を倉庫から出してもって行きました。これは先月葦原を刈り取ったために下流域から潮と風によって上流部分に流されてきたペットボトルが葦原で止められずに更に上流部に流れてきて溜まったものと思われます。

途中子ども達がクサガメやクサフグを捕まえたり、拾った空き缶の中にチチブが棲みついていたのでそのまま川の中に戻したり、ヒバカリの子どもを見たりしながらゴミを拾い、ちとせ園までくると、既に上流のメンバーが到着していました。洗濯物干し用のピンチが落ちていたので拾ってきたとのこと(殆ど壊れていないので風に飛ばされたと思われます)。

また、今回県営住宅跡地の草刈りを行なう予定でしたが、前日の9月27日(土)に大道町内会で草刈りをしたようで綺麗になっていました。前回の草刈りの時も参加できなかったのが大変申し訳ありませんでした。この場所は侍従会と大道町内会の共同で借りているのでなんとしても今回は草刈りを実施したかったので残念です。

作業終了後、子ども達にお菓子と飲み物を沢山、大人達には麦の飲み物を買ってきて一休みして解散しました。



二の橋下の清掃作業



長島橋下流で見かけたコサギ



回収した土嚢袋14袋分のゴミ



草が刈られて綺麗になった
県営住宅跡地

秋の恵みをいただこう！～侍従川源流の森探検

【活動報告3】

10月11日（土） 9：00～15：00

山田陽治

10/11 土、秋の恵みをいただこう！～秋の源流の森探検」が行われました。

集まった35名（未就学児4、小学生13、中学生2、大人14、スタッフ2）は、侍従川沿いを歩いて、朝比奈町にある源流の森へ。

森の中で早速見つけた秋の恵みは“むかご”、ヤマノイモの栄養繁殖器官で葉の元の茎につく…生だとネバネバした感触で、熱を加えるとホコホコした感触になる。

子どもたちは、秋の恵みだけでなく、いろんな生き物も発見していました。



あまり人が通らないからか道が藪になっている所が途中ありましたが、ドンドン進むと廃寺（常林寺）に出ました。そこには大きなイヌガヤがあり、木の下からライムのような匂いがしてきました。この匂いはカヤの実の果皮からするのだが、食べるのは中の種子。殻を剥いて食べるのだ…いつもなら沢山拾えるのに、この日はほとんどなかった。よく見たらクリハラリス（タイワンリス）にほとんど食べられていました（泣）



下山して早速調理に♪

カヤの実を炒って食べると、ピスタチオみたい。ヤマノイモのむかごはバター醤油で炒めると、里芋に似た感じに。

この日は侍従川流域の秋を感じられる一日となりました。



10月定例クリーンアップ

【活動報告4】

10月26日(日) 9:00~11:00 晴れ 20℃

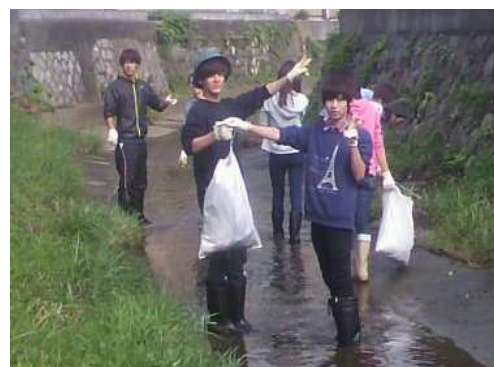
朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、関場俊子、外川忠志、寺尾勝廣、山田陽治、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小3)、今井はるか、片山敦(玉川大学)、重田優香(中2)、深沢大地(中2)、片岡生一(小6)、小野田勇介、小野田幸介(小6)、高橋一太(小4)、関東学院大学 二宮咲子・金田晴美 両先生と人間デザイン環境学科の学生16名、細川一雄(計38名)

露が落ち始めた秋も半ば、今回は関東学院大学の人間デザイン環境学科の二宮先生と金田先生が学生16名を伴って参加してくれました。草刈り・清掃体験と環境調査の実習のようです。そのため狭いちとせ園が更に狭く感じられ久しぶりに賑やかになりました。

活動開始に当たり、昨年と状況が変わって、源流域は今年の大雪で崖崩れが有り危険なため、活動範囲から除外した事、メンバーの高齢化に伴い草刈り作業を行わずに清掃作業のみとした事(代わりに中流域は神奈川県治水事務所、上流域は金沢土木で草刈りをしてもらいました)を説明し、3班に分かれて活動してもらいました。



大道橋上流の作業風景

1班は上流の朝比奈橋から大道橋間で細川が誘導、2班は中流の大道橋から山王橋間で八木場さんと関場さんが誘導、3班は山王橋~大道東橋間(一番生き物がいる地区)で山田さんに誘導してもらい主に清掃作業を実施しました。



もう直ぐゴールです

現場への移動途中、大道橋の下でシラサギが餌を探していましたが、2班がその場所から川に降りたため、どこかに飛んでいってしまいました(食事の邪魔をしたようです)。1班は更に上流に向かって歩き地蔵前橋から川に下りて一旦朝比奈橋まで遡ってから作業開始です。



回収した9袋のゴミ
(水中ポンプ・傘・鉄筋ブロック)

途中、川の状態などを説明しながら清掃作業を行いました。工事業者が捨てたと思われる水中ポンプや女性の下着など考えられないようなゴミを拾いながら

川を下ります。外川さんが青木橋まで来てくれましたので重い水中ポンプと鉄筋ブロックを持っていてもらいました。

終着地点の大道橋までもう少しのところまで来たときに学生さんの一人がコンクリートの斜面で足を滑らせてしまいました。幸いに怪我は無かったようです。また、他の学生さんは深みにはまってしまい腰まで濡れてしまいました。携帯電話が水に濡れたようです。川に入る前に事前に注意していましたが、つい油断してしまった様です。

大道橋から陸に上がろうとしたところ、付近にガラスの破片が見えたので拾いはじめたら両手に余るほどのガラス片が拾えました。この場所は川が浅く石が出ているため、捨てられたガラス瓶が割れてしまいます。ビンのままであれば直ぐ分かって拾えますが、割れて小さな破片になると見つけにくくなります。

侍従川は近くの3つの小学校の生徒が川に入って自然体験する川ですのでガラス片が落ちていると非常に危険です。モラルの無い人間がいることは非常に悲しいことですが、いくら掃除してもゴミが無くならないのと同じ現実です。

作業終了後、参加者に飲み物とお菓子をたくさん、大人達には麦の飲み物を買ってきて一休みして解散しました。



捕まえた魚などの説明を聞く参加者

朝夷奈の森通信 ~森の忍者より~ 飯村優介

今年九月は雨に恵まれ、朝比奈近場で初秋キノコ豊作。

ヤマドリタケモドキが多く、とてもおいしくて西洋のヤマドリタケととても近い。西洋の友達はこのをととても好む。万能的で和風炊き込み飯にしてもうまかった。

そして高所訓練で初のマツタケに自力で出会えた。岩峰のコメツガのもとはいあがりきた谷をふりかえった。大きなホウキタケもあり、幸運の探検となった。



マツタケ



ホウキタケ

11月定例クリーンアップ

【活動報告5】

11月23日(日) 9:10~11:00 晴れ 13℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、村田章夫、外川忠志、山田陽治、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小3)、今井はるか、深沢大地(中2)、貞廣裕子、貞廣宇保(小2)、貞廣果南(3歳)、長崎光則(中2)、重田優香(中2)、重田綾優(小5)、片岡生一(小6)、小野田幸介(小6)、細川一雄(計21名)

晩秋に近づき、ちとせ園の桜の葉が散って赤い絨毯を敷いたようになってきました。寒さの進行も一休みのような少し暖かく感じられる晴れた日です。先月に引き続き20名近くの方が参加してくれましたので、子どもたちは下流、大人たちは上流に別れて活動を開始しました。

活動を開始してまもなく、里野橋下で財布を拾いました。お金は入っていませんでしたが、運転免許証・銀行のキャッシュカード・クレジットカード・会員券などが残っていました。先月は有りませんでしたので先月の活動日以降に捨てられたと思われます。財布の持ち主の住所が東京でしたので、誰かが東京で盗んで、この川で捨てたのではないかと勝手な推理をしてしまいます。以前にもこの川で財布を拾いましたので犯人は川の周辺にいる人業ではないのか？ 想像はドンドン膨らんでいきます。

今回は上流は大きなゴミは有りませんが、ガラスの破片を沢山拾いました。大道橋の下、第二山王橋の下など石がごろごろと転がっている所に多いようです。多分橋から捨てたビンが石に当たって割れてその場に残ったと思われます。

大道橋まで降りてくると下流から上がってきた子どもたちと会いました。下流では傘3本と植木用のパイプなど多少大きなゴミが出たようです。ちとせ園に戻り、ゴミ袋を纏めて6袋にして県営住宅跡地に外川さんに車で運んでもらいました。作業終了後子どもたちにはジュースとお菓子を沢山、大人達には麦の飲み物を買ってきて一休みして解散しました。



朝比奈橋下流の作業風景



地蔵前橋上流



大道橋上流の作業風景



回収したゴミ(6袋分) 傘3本

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～
 ～ クサキリモドキ ～



撮影地：石垣島



イタジイの幹に産卵する♀



♀の幼虫

学名：*Togona unicolor* 体長：43～57mm

分布：沖縄島、久米島、石垣島、西表島、奄美大島、徳之島、沖永良部島

鳴く虫の仲間で、移動するときにはバッタのような姿をしていますが、危険を察知すると体を平らにして見事に葉になりきります。国内でこの仲間を見られるのは琉球列島だけで、近縁種は東南アジアの熱帯域に広く分布しています。イタジイの多い照葉樹林で見ることができますが、まとまってみられることはなく、非常に稀です。

《生き物発見記録》

10/11(土) 大道中学校裏山で珍種タカチホヘビを発見 (今井) ①

10/18(土) 朝比奈小学校でクツワムシ健在 (佐野) ②

10/18(土) 大道中学校産のホトケドジョウが朝比奈小学校のホタル池で繁殖しました。ホトケドジョウは侍従川流域で1カ所しか生息していません。そのため危険分散の目的で2014年3月に同水系の朝比奈小学校に放流しました。当時4個体を放流しましたが、今回12個体が確認されました。③



①



②



③

佐野真吾が語る侍従会の思い出

～世代は変わって、問題児軍団との思い出～

2006年3月、大学受験が終わり、私が3年ぶりに侍従会に復帰した時は自分と近い世代の人たちはすでに遠い大学に進学していたり、就職をしていたりで、来ている子たちは小学生ばかりでした。そんな侍従会に参加して「しばらく来ないうちに世代が代わったんだなあ」と実感しました。

当時の私は子どもと触れ合う経験はありませんでした。そのため、「子どもの前では大人のお兄さんを演じるべきなのか？でもそんな演じる自分も恥ずかしいし、あやすような上から目線な態度は好きではないし」とあれこれ考えていると、自分はどのように振る舞えばいいのか分からず、結局子どもとのコミュニケーションに苦手意識を持ってしまっていました。

しかし、そんな私が侍従会復帰後最初に関わることになったのが、M小学校・S小学校の子どもたち（カネゴン、イノウエ、コンちゃん、タイショウ、コデラ、マーくん※佐野が呼んでいたアダ名で紹介）で編成されたわんぱく問題児軍団でした。

彼らは学校では相当ヤンチャをしていたようで、さらにその中でもキャラの濃い子たちがそろって侍従会に参加していました。彼らは一言で言えば超破天荒で、一回り年齢の離れた私に対しても何の遠慮も躊躇もなく踏み込んで来ました。

「おい！サノシン！」「なにい？(怒)」といった感じです(笑)。そんな遠慮のない子たちですから、こちらも遠慮する必要はありません。彼らに対しては私もふざけたり、怒ったり遠慮なく接することができました。

こうして私はいつの間にか子どもの前での振る舞い方や演技方など無駄に気を使うことはなくなり苦手意識もなくなりました。生意気な子たちでしたが、最初に出会って付き合った子どもたちが彼らで本当に良かったと思っています。



2007年定例調査



2008年ハゼ釣り大会



2008年ハゼ釣り大会



2008年冬の森たんけん

そんな中で、彼ら一人一人に個性があり能力があることに気付きました。

それは当たり前のことなのかもしれませんが、物事を考えながら行動をする子、感覚的に本能のまま生きている子、何か見つけたら同じことをずっとやっている子、一つのことに突出した才能を持っている子など、子どもたちの個性というものを実感しました。また、それと同時に予想も付かない行動をしたり、なぜこのような行動にいたるのだろうといったことをする子どもたちを見て「子どもも生き物なんだ！そして生き物と同じ様に個体差（個性）があるんだ！」と、私は生き物に興味を持つ時と似たような面白さを感じたのでした。

彼らとは侍従会の活動を通してたくさんの時間を過ごしました。この文章の中では語りつくせない程、漫画みたいな面白いエピソードがあります。

彼らは小学生の頃から高校卒業まで積極的に参加してくれたので、私の大学生・大学院生時代の6年間と重なり、彼らの成長を見ながら私自身も成長していった気がします。

そして、高校生になり同じ目線の立場で一緒に活動するようになったカネゴンや大学受験の時に自然系に行きたいと相談にきたコンちゃんを始め、それぞれが新たな進路を歩み始めたことを心から嬉しく思います。

あんなに小さかった彼らもうすぐ成人です。もう少しで一緒に飲みにいけるかな？これからも変わらず生意気に接してもらいたいものです（笑）



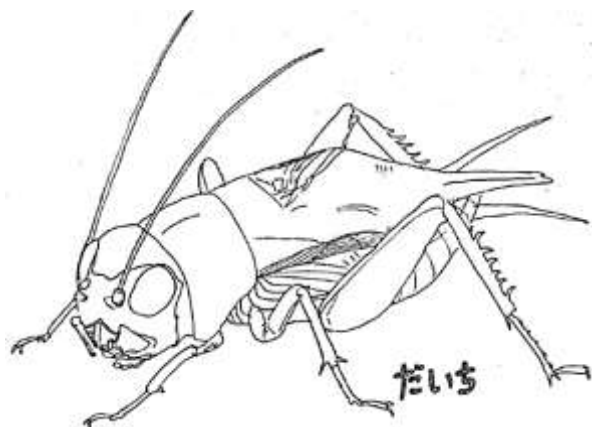
2008年冬の森たんけん



2008年新入生歓迎遠足



2009年子ども会議



2010年学生部合宿



虫のきょういく座談会 ～いきものカレンダー～



参加者：山田・佐野

少し前の話になるが、今回は書き途中でお蔵入りになっていた座談会を紹介したい。2012年1月中旬のある日、筆者佐野のもとに山田氏から一通のメールが届いた。内容は、侍従川の“いきものカレンダー”を作りたいから絵にする生き物を何にしようか考えたいとのことであった。こうして上大岡の“けん”に集合したのであった。

佐野「何でまた突然カレンダーを作ることにしたんですか？どこかからの依頼ですか？」
山田「いや！個人的に作りたいなあと思って(笑) ちなみに侍従川版と三浦半島版で2つ作ろうと思ってるんだよ。絵はもちろん俺が書きます☆ ちなみに三浦半島版で書こうと思っている生き物はこんな感じ！→1月：ダンゴウオ、2月：トウキョウサンショウウオ、4月：アメフラシ、5月：アユ、6月：ゲンジボタル、7月：ハグロトンボ、8：アカテガニ、3月、9月、10月、11月、12月はまだ決まってない。」

佐野「なるほど！でも7月のハグロトンボは侍従川版ならマッチしますが、三浦版ではあまりイメージくないですか？」

山田「やっぱり？でも絵を書くの大変だから、両方で使えるやつは両方で使いたい(笑)」

佐野「手抜きじゃないですか！(笑) まあでもそうなるとアユ、ゲンジボタル、アカテガニあたりは必要ですね～」

山田「あと、侍従川版にはチチブ、カワセミ、ヤマアカガエルは入れたいな！」

佐野「三浦版のダンゴウオ、トウキョウサンショウウオは Teppan ですね！」

さて、ここまでで楽しく読んでくださる読者はどれだけいるだろうか。このまま話を進めると、読者が激減してしまう可能性があるので説明させていただこう。まずカレンダーになる生き物は、月ごとの季節にあった生き物が選ばれている。例えばゲンジボタルなら6月が出現期なので、6月のカレンダーになるという感じだ。さらに侍従川版なら侍従川のシンボリックな生き物、三浦版なら三浦のシンボリックな生き物や特有の生き物が好ましいということである。

山田「じゃあ次は、まだ決まっていない月は何がいいと思う？」

佐野「7月でクサフグとかどうですか？」

山田「クサフグかあ～確かに産卵シーズンだしね～」

佐野「9月～12月は決まってないんですか？」

山田「冬は生き物少ないから燃えないんだよね～」

佐野「分かります！日本は冬長いですよ。僕も虫がいなくなる11月頃から心がすさんで病んでいきますからね！（笑）」

山田「まあでも今ぐらい（1月）は長い冬で逆に生き物に飢えてる時期だから無性に描いたり撮影したくなる時期でもあるんだけどね～」

などと話をしていると「お皿をお下げいたします。」と店員さんがやってきた。

山田「はいどーもー。まあでももうすぐヤマアカ(カエル)とサンショウウオの時期だから早く行きたいね～」

佐野「飢えてますね～(笑)」

と、お構いなく会話を続けていると、一瞬店員さんの顔が変質者を見る眼に変わったような気がした。冬になると病むだの飢えるだのサンショウウオだの頭のおかしい客だと思われたのかもしれない。こうして山田氏は2012年のカレンダー作成にとりかかった。さぞかし素晴らしいカレンダーが出来上がったに違いない。

さて、それから時が経った現在、座談会のネタに困った佐野は2年前に途中まで書いてお蔵入りになっていた当座談会を思い出した。そして、カレンダーの仕上がりについて聞こうと山田氏にメールをするとこんな返信が来たのであった。

山田「あああれ途中で挫折した！笑 今年はやちゃんとやろうかな？笑」

ガーン…。

最後に山田氏が途中で描いたカレンダーの絵をご覧くださいから当座談会をしめくくらせていただく（以下、山田氏の絵）。



(おわり)

大道小学校のエコアップ報告

大道小学校では、トンボ池での活動を中心に10月から11月まで以下の活動を行い、エコアップを進めてきました。

1. トンボ池のエコアップ

毎年、池の底に溜まっているヘドロを取り除いていましたが、植物や動物の生態系への配慮のため、今年度はヘドロを取り出さず、水性植物を植える、橋を修理する、池周辺の清掃活動を中心に行いました。

また、子どもたちには、池に棲んでいる生きものの生態数を調べる「生態調査」を行いました。魚類、甲殻類などの数は多いですが、貝類の数がとても少ない状況でした。今後のエコアップの参考にして、生きものに優しいトンボ池をこれからも目指します。

2. ホタルプロジェクト

トンボ池の水門（灯油保管庫裏）の工事をしました。平行して、灯油保管庫裏の水路から田んぼに水が流れる水路を作って、ホタルが生息できる場所をつくらうというプロジェクトをふるさと大道の風景をつくる会と環境創造局の協力で取り組むことにしました。

現在は、水門が完成し、トンボ池の水が田んぼまで流れるように水路が完成したばかりです。これから、水路の環境を整えて、ホタルが棲めるような環境を作っていく予定です。

3. ザリガニ釣り大会を開催！

11月上旬に学校エコアップ委員会が主催で休み時間に「ザリガニ釣り大会」をしました。夏にはたくさんいたアメリカザリガニでしたが…秋が深まり、寒さも増したことで、一週間で釣れたザリガニは1匹。子どもたちは大変残念がっていましたが、「ザリガニも冬眠する」ということを学ぶよい機会でした。

次回は、繁殖も盛んになる夏に行い、トンボ池で楽しめるイベントを開催したいと委員会の子どもたちは意気込んでいます。

冬になり、トンボ池の活動もお休みモードになっていますが、1、2年生の秋の落ち葉ひろいをして工作をしたり、冬・春野菜を育てたりとトンボ池周辺での活動で自然と楽しんでいます。これからも、子どもたちがトンボ池に親しみ、楽しめる場所であり続けたいと思います。今後ともご協力よろしくお願ひします。

(玉利海太郎)

侍従川定例調査報告 学生部

10月26日(日) 10:30~12:15 晴れ

調査範囲：泥牛橋～大道一丁目緑地（ちとせ園）

参加者：関東学院大学（二宮先生、大学スタッフ、学生16名）、片山（玉川大学）、侍従会（今井家4名、深沢、重田、高橋、山田）

植物：セイヨウタンポポ、ハルジオン、セイトカアワダチソウ、ヨモギ、キク科sp、イヌホオズキ、オランダガラシ、ギシギシsp、イヌタデ、ミゾソバ、ツルミゾソバ、セリ、クワ、カナムグラ、カラムシ、ノハカタカラクサ、スイセン、カキツバタ、キショウブ、ショウブ、マコモ、ヨシ、セイトカヨシ、ウキシバ、イネ科sp、ガマ、アブラガヤ

動物：カワニナ、イシマキガイ、ヤマサナエ（幼虫）、コオニヤンマ（幼虫）、コヤマトンボ（幼虫）、コシボソヤンマ（幼虫）、アメンボ、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ、コイ、フナsp、ボラ、メダカ、マハゼ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、ビリンゴ、ウキゴリ、スミウキゴリ、チチブ、アベハゼ、クサフグ、ミシシッピーアカミミガメ、カルガモ、アオクビアヒル、コサギ、アオサギ



11月23日(日) 晴れ

調査地：中流域

魚類：チチブ、スミウキゴリ、ウキゴリ、マハゼ、ビリンゴ、クサフグ、ボラ

貝類：カワニナ、イシマキガイ、コウロエンカワヒバリガイ

昆虫：ガガンボ類の幼虫

甲殻類：チチュウカイミドリガニ、テナガエビ、ミゾレヌマエビ

爬虫類：ミシシッピーアカミミガメ

鳥類：ハクセキレイ、アオサギ、コサギ、ジョウビタキ

※クサフグ・マハゼ・コウロエンヒバリガイ・チチュウカイミドリガニなど海水・汽水域の種が比較的多く見られました。今回はヤゴ類が見つかりませんでした。

トピックス

9/21 (日) 洋光台サイエンスクラブ自然観察教室「侍従川ミニ水族館をつくろう！」

(主催: はまぎんこども宇宙科学館) 開催・講師 山田

10/18 (土) 金沢いきいきフェスタ (海の公園にて)

にふるさと侍従川に親しむ会ブース出展 (侍従川水族館とぬりえコーナー他) …今井家族、深沢、片岡、高橋、黒川、佐野夫妻、山田が担当



10/20 (月) 大岡小学校 5-1 に侍従川の写真を使って川のレクチャー…山田が対応

10/26 (日) 侍従川定例クリーンアップ後に関東学院大学の学生と侍従会の子もたちと合同調査 (侍従川中流域) ※調査結果は「侍従川定例調査報告」に掲載

11/3 (月) 地域ふれあい祭り 2014 (三ツ池公園にて) に横浜の水辺と緑を考える子ども会議ブース出店。侍従会からは、今井家族、深沢、重田姉妹、高橋、山田が参加

11/29 (土) 六浦小学校 学習発表会にて3年生が侍従川について発表

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆ 1月～3月の活動予定 ◆

☆定例クリーンアップ 1/25(日)、2/22(日)、3/22(日)

9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期…翌週日曜

☆ 1/10(土) ネイチャークラフト教室

集合: 大道小9時 解散: 大道小15時半頃
(途中で抜けても構いません)

持ち物: 弁当 (コンビニでも買えます)、

水筒、防寒着、軍手、剪定ばさみ (持っている人)

☆ 3/22(日) 横浜の水辺と緑を考える子ども会議 (予定)

実行委員会の情報は、分かり次第お知らせします。

■ 学生部の活動は別途お知らせします。

《編集後記》 今年一番のニュースといえば、前号でもお知らせした、佐野福代表の結婚ではないでしょうか。来年は、山田代表の・・・みなさんどうぞ良いお年をお迎えください。

(MK)

◎活動の詳細 (集合時間・場所、持ち物など) は、ホームページをご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局

金沢区六浦5-23-26

長橋 輝明

TEL&FAX: 781-4042

e-mail: jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp